

1. 活動報告（事務局 記）

—7月23日（水）厚南こどもエコクラブ親子約40名夏休み学習会

—8月3日（日）暑い中17名の参加で下記管理活動をしました。

参加された会員の方々、大変暑い中、お疲れさまでした。

① 〇〇湿地帯のカササゲのエコアップ

② 蕎麦田周囲、田んぼ周囲草刈り作業

③ 草原猪被害個所の溝上げ作業

そのほかビオトープ周辺にある危害種木（ハゼ、ウルシ、ヌルデの違い）の勉強会をしました。

—8月23日（土）午前 蕎麦の播種 前日の降雨によって地面はぬかるんでいましたが、予定通りそばの種をまきました。20名の参加でした。

午後 厚東川の探検（高学年隊員）、須賀河内川の魚調査（低学年隊員とジュニア）

昨日の雨で水位は上がっていて少し危険を伴いましたが、多くの会員、学生の応援で無事探検ができました。川の中での遊びは観察隊一番のイベントであり愉快地楽しく探検調査できました。 隊員19名、保護者会員8名、スタッフ17名と山大学生さん6名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎ 行事

—9月7日（日） 維持活動エコアップ（スゲ、イグサ、アサザ、ヒツジグサ）
合鴨養育圃場 撤去予定

—9月20日（土）午前 維持活動
午後 里山自然観察隊（昆虫採集）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

—7月21日 この方のコメントをネットで見てやってきました。（6月27日の近くの住人の書かれたコメント） カワセミ本当にやってきました。まずまずの結果に満足でした。

西原さんご苦労様です。

松崎吉雄

—7月26 東京から来てたまたま見つけた場所に感動しました。また来たいかも。

—8月4日 今ホームステイに来ている子と一緒に見ている。あの黒いチョウトンボがかわいく
またとてもきれいでおおきかった。

ここだけ時間が止まっているんだ。あのくるくる回る水車がきつと時間をとめているんだ。

ごくごく普通のびーぼ A

—8月14日 晴れ二俣瀬市民センターに車を止めてもらってきました。今日は私と母と妹でビオトープを見に来ました。田んぼが風に吹かれている様子を見てとても心がやすらぎました。

また来年も来たいですよ。

—8月14日 今日見たトンボ

キイトトンボ、ベニイトトンボ、モノサシトンボ、オオイトトンボ、クロイトトンボ、

アオモンイトトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、チョウトンボ、ハグロトンボ

4. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) 管 哲郎

(3) クロスジギンヤンマ (ヤンマ科)

Anax nigrofasciatus nigrofasciatus OGUMA, 1915

東北地方から九州、屋久島までにみられ、ギンヤンマと並び春一番に見られる大型のヤンマです。ギンヤンマはわりと広い池を好みますが、クロスジギンヤンマは平地・丘陵地の木陰のある植生豊かな小さな池の方を好むようです。止水性のトンボなので、5月の連休明けの頃より池や湿地の上をパトロールしている姿が見られることでしょう。



産卵する (♀)



(♂) のクロスジギンヤンマ

クロスジギンヤンマの羽化



クロスジギンヤンマのヤゴ
羽化の為上陸



5. 会員の声 (新会員 内藤武顕)

“えんぼとたんぼの始発駅” パートIV 奥の細道

美祢の女性から電話が入った。『今、厚東に帰ってきています。お元気ですか？昨日家族とピオトープへ出かけましたよ。2度目なんです。一度目は6年前主人と二人で・・・ちょうど主人が体調を崩した頃・・・それにしても見違えるように生き生きときれいになりましたね。暑さに負けず孫たちと歩きましたよ』『どこまで行っちゃったのですか？』『途中ね・・・川の音がとてもよく聞こえてきて、沢の流れが道からよく見えて岩があってね、そこに苔が生えていて・・・。実は思い出したんですよ。主人が川に自分の顔を映して笑っていた場所なんです・・・』

わたしの須賀河内川上流への印象は希薄でした。春分の日、道普請に年一回行くところ、作業終了すれば軽トラックに乗って同乗者と饒舌のうち通り過ぎる小川という程度のものでした。

夕日が傾きかける頃、清瀬峡のほうへ歩いてみる。両側の並木は生い茂り、すっかり日射しを遮っている。道はまさに深い緑のトンネルになっている。100m位行くと〈寄り合滝〉という少し薄くなった標識を右に見ることになる。沢の流れが道からよく見える。琴の音色が流れてくれば至福と想った。傾斜面はきれいに手入れされていて下り易かった。突出している岩に腰をおろしてみた。少し腰をあげ上流を見上げると岩肌が幾重にも重なって見え、涼感を呼ぶようになる。水面には顔は映らなかった。顔ではなく木漏れ日が映っていた。夕暮れの夏、須賀河内川の風情は認識を変えることになる。ふと須賀河内川の源流を辿りたくなった。男嶽が(ピオトープ駐車場より南東へ約3km二俣瀬の最高峰?)源だと知るコトニナル。ロマンを感じた。後日、原田事務局長愛用の軽トラックで男嶽の麓を訪ねることになる。わたしの運転では到底不可能な道程であった。伝説の山、男嶽からの湧水が沢の滝となり、ピオトープ千年の夢を育む絆になっている。

駐車場に着くと雑草の中にヒルガオが咲いているのが見えた。やがて収穫の秋。

※《寄り合滝》

名称は林弘之会員 思いは会員、地区の人たちの寄り合い場所となるようにです。

6. 里山自然観察隊(8月23日、隊員 19名、保護者 8名、会員 17名、応援学生6名)

川の探検(須賀河内川) (原田 満洲夫 記) 名称の()内は二俣瀬地域の呼び名

前日の雨で 厚東川は水位が上がり、須賀河内川は水量も増え少し濁って心配しましたが、子供たちはそんなこと、屁の河童。自分が小さい時もそうだったように好きなことをするとき、少々の壁は押しつけてでも行った事を考えても中止にすることができず、少し無理であったが、大人も子供も我を忘れて魚を追いかけまわり、行ったことは成功だったといえます。

いずれの場所(厚東川、須賀河内川)も数年前より魚の種類と数がへって捕獲できた魚は一般的カワムツ(ハヤ)、ドンコ、スジエビ(モエビ)などであった事が残念でなりません。

数年前までいた、カマツカ(ホウセンボウ)、シマドジョウ(スナドジョウ)、オヤニラミ、ニゴス、ギギ(ギギユ)、ヨシノボリ(ゴリまたはゴリン)、モクズカニ(ケガニ)は今回見つけることはできませんでした。もちろん私たちが小さい頃捕れた テナガエビ、ナマズ、ウナギ、アユ、ウグイ(イダ)、アブラボテ(タナゴ族)は全く見られず厚東川水系のこの近辺では絶滅したのではないだろうか?と危惧されます。

ただし、和名“アカザ”という名の当地では初めて聞く魚が厚東川で発見?されました。当地二俣瀬では違った名前では前からおるじゃないか!という人もおられるかもしれませんが、有識者が見つけたことは確かです今後この様な形態(新しく見つけだしたり、呼称が違っていたり)がちよくちよく出てくることを期待したいです。

ピオトープの池では スジエビ(モエビ)の幼魚がたくさんとれたことが、何よりの慰みでした。ただウシガエルのオタマジャクシの数が魚より多かったことはエコアップとして考えさせられることになりました。

いずれにせよ子供の興味も一番だし、川の中の生き物の棲息状況を継続調査していくことが「里山自然観察隊」の宿命であろうかと思えます。

川の探検（厚東川） （関根 雅彦 記）

今回初めて厚東川下りを企画しました。午前中の下見では、曇り空の下、涼しい風が吹き、ほんの数日前までの猛暑がうそのよう。左岸から川に入ると、足もとが見えないほど濁り、水温も低くてびっくり。こんなのじゃ水に浸かれない！見えない石につまずきながら右岸に移動すると、ダムの放流水の比率が高いためか水が暖かく、濁りも少なめ。なんとか水に体を浮かべることができました。しかし、アユの食み跡は目立つものの、肝心の魚影が少ない！さらに、途中の橋付近は大人でも立っているのが難しいほど流れが速く、橋を過ぎたところで浅くなって白波が立っており、流されると勢いよく岩にぶつかってしまいそう。残念ですが川下りは中止し、河川公園周辺での探検に切り替えることにしました。

子供たちを2人ずつ4グループに分け、グループごとに水中カメラを渡し、担当会員を決めて川に入ります。まずワナをしかけ、つぎに手網を手に水中メガネで観察です。観察開始早々、松原会員が立派なオヤニラミをGet！ 隊員も会員も、われもわれもと色めき立ちます。しかし、午前中の下見どおり、水中観察ではいつもならたくさん泳いでいるオイカワ・カワムツがほとんど目につかず、ヨシノボリが石の間を動き回っているのが見えるだけ。当然、ワナやつり・手網もほとんど収穫なく、ヨシノボリや稚魚が少しずつ増えていくだけ。それでも子供たちは元気に走り回ります。走り回るのに忙しくて、水中カメラの出る幕がないくらい。最終的には、会員が投網でオイカワやムギツク、スナドジョウなどを捕獲。隊員も手網で貴重なアカザをGetするなど、条件が悪い中でそれなりの成果をあげました。著者個人的には、隊員が捕まえたえらく元気な遊泳型のカゲロウが珍しかった。

成果報告も終わり、時間が来たのでさあ解散というとき、子供たちから「川下りはせんのか？」の声。「したい人だけやってみようか？」と問うと、全員「やりた〜い」。やっぱり川下りが楽しみだったんですね。岩に激突しないよう美濃和会員に下流に立ってもらい、一人ずつ急流に身をまかせます。スタート地点ではさすがに怖そうにしているものの、あつという間に流れ下ると、「1回だけ？」と満足しない様子。「あとはお父さんと一緒にやってね」、となだめます。少々流れがあってもこの方法なら実行できそう。来年は、条件が悪くてももっと楽しめるものにできそうです。

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

やまぐち県民活動きらめき財団からジャンプアップ活動助成金の交付通知を受けました。(20万円)すでに合鴨農法の確立事業で約10万円ばかり使わせていただいています。残り約10万円については計画どおり里山の保全（維持管理修復用材料購入資金が主）で使用させていただきます。

次回より有意義な助成金使用のため協議したいと思います。

8. 編集後記 - 1

暑い、あつい夏ですが、みなさんお盆はいかがお過ごしだったでしょうか？

私は毎年、周防大島のいなかに帰るのですが、海がすぐそばなので、いとこ達と一緒にサザエやタコを獲りに出かけます。昔ほど数がいなくなったみたいですが、それでもサザエなどは一人5個ぐらいは獲ることができます。

今回の観察隊は、私にとってなじみのない川で行われましたが、その分新鮮でした。流れの速い場所をうつぶせになって流れていく様は、見ている方が怖かったのですが、子供達はすごく楽しそうでした。こんな事、海ではなかなかできませんね。帰ってこられないですから（笑）その場その場の楽しみ方があるのだなあ、と、当たり前ながら実感しました。（吉崎 礼子 記）

編集後記 - 2

初めて編集後記を書きます、小田政江です。周南市に引っ越して4ヶ月、ビオトープへの参加もなかなか出来ない状況です。そんな中、何を書けばいいのか正直戸惑っていますが、自分が最近接した自然環境について、書いてみます。

7月末、私は日本熊森協会の本部スタッフと一緒に、岡山県の氷ノ山後山那岐山国定公園の若杉原生林へ行ってきました。若杉・・・というだけあって、杉の木は少なく、森のほとんどは、広葉樹林で占められていました。この奥山は、木漏れ日が差し込んで「した草」が生い茂り、石や岩は苔むし、沢水が湧き出ているといった、とても豊かな森です。去年落ちた木の実の殻も沢山転がっていました。

そこから、少し下ると、杉の人工林がありました。枝打ちがされておらず、針葉樹の葉は光を通さないで真っ暗、「下草」一本生えていません。勿論、動物の食料となる木の实なんか落ちていないのです。ひどい惨状でした、「動物が里に出てくる」ことに納得しました。

ビオトープに初参加した際、「イノシシ被害」のために土手の修復作業をしました。その最中、松本さんが「昔はこんな風に動物がでてこなかったのに、おかしいわねえ」と仰っていました。いま、日本全国で同じような悲鳴があがっています。今後、多くの人の手で奥山の自然が再生し、里山の自然も守られていけばいいなあ・・・と強く思います。 (小田 政江 記)